

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	80%	自校A B層の割合	80%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	68%	自校A B層の割合	65%

## 目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
<b>学校全体の取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習スタンダード」（ノート の取り方・話し方聞き方）の共通理解を図る。</li> <li>「主体的に考え、自分の思いや考えを表現できる児童の育成」の研究主題のもと国語科・文学教材の「読むこと」を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業研究を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年、中学年は毎週金曜日の朝学習で、個に応じた学習内容を設定する。</li> <li>5年生、6年生は年間30回のよむYOMUワークシートを実施し、国語力の向上を図る。</li> <li>一人一台タブレット端末を活用した授業を1日1回以上設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「宿題スタンダード」について、児童・保護者とも共通理解を図り、宿題に毎日取り組めるようにする。</li> <li>「江戸川っ子study week!」を実施し、デジタルドリルの活用を推進する。</li> </ul>
<b>特に支援が必要な児童・生徒への手立て</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分なりのめあて」をノートやオクリンクに書き、振り返りができるように支援する。</li> <li>全員が自信をもって答えられる問題を授業中に数問作り、自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切に対象児童を選出した上で、放課後補習教室を実施する。</li> <li>3年生以上の算数少人数指導を、学級数+2展開で実施し、CD層児童への学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルの診断テスト結果をもとに、苦手分野のデジタルドリルに取り組めるようにする。</li> </ul>
<b>成果指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「学習することが楽しいですか」の問いに「楽しい」と回答する児童の割合を85%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルで80%以上の児童が、正答率80%を達成できるようにする。</li> <li>東京ベーシックドリルの診断テストで、正答率50%未満の児童を全体比10%以内とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の「授業時間以外の勉強時間」で1時間以上と回答する児童を85%以上とする。</li> </ul>